【日刊留萌新聞に掲載されました】

本校が日本赤十字社の「第 13 回赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」で北海道の団体部門・高等学校の部団体賞を受賞し、２月５日（火）に本校で表彰されました。

本校は今年度、北海道教育委員会より「献血に関する授業実践校」の指定を受けており、昨年 10 月には献血をテーマとした授業を実施しました。その際に、全校生徒が俳句を作りました。

全校生徒を代表して賞状を受け取った斉藤真彩さんは、自身の経験を基に献血の大切さについて語りました。

ご多用のところ、表彰のために本校を訪問してくださった、北海道赤十字献血センター旭川事業所事業所長の鈴木一彦様、ありがとうございました。



全校生徒の325句を応募

献血俳句コンテスト

羽幌高校が団体賞受賞

【羽幌】羽幌高校（宮下裕加校長、生徒157人）が、日本赤十字社の「第13回赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」で、北海道の団体部門、高等学校の部団体賞を受賞し、5日午後0時40分から同校で表彰式が行われた。

同コンテストは10代、20代の若年層の献血者が減少傾向にある中、若年層を中心とした幅広い年齢層から俳句を募集し、赤十字や献血の必要性、重要性を知ってもらうことなどが目的。全国の小中学生、高校生などから個人、団体部門合わせて13万6524句、道内からは4965句の応募があった。

羽幌高校は、道教育委員会から今年度の献血に関する授業実践校の指定を受けており、昨年10月に献血をテーマとした授業を実施。献血の歴史や必要性、輸血や献血の方法などを学習した。これを機に、全校生徒が1人1～3句、合計325句の俳句を作って同コンテスト団体部門高校の部に初応募。道内から応募した8校のうち、作品数の多さなどから最も高い評価を受け、北海道の同部門の団体賞に選ばれた。

表彰式は校長室で行われ、北海道赤十字献血センター旭川事業所の鈴木一彦事業所長が、生徒会の斉藤真彩会長（2年）に賞状を手渡した。斉藤さんは「私は昨年11月に輸血を受けました。献血をしてくださった方々に感謝しています。献血をしてくださる人たちがたくさん増えるといいと思います」、宮下校長は「私も輸血を受けたことがあります。命を助ける一つの可能性として、献血を生徒たちに呼び掛けていきたい」と話していた。

留萌管内では、同校のほか留萌市の港南中学校も北海道中学校の部の団体賞を受賞しており、12日には同校で表彰式が行われる予定だ。（児玉一朗）

鈴木事業所長（左）から団体賞の賞状を受け取る生徒会長の斉藤さん